

だい かい しょうわ みらい かいぎ 第8回「昭和未来会議」のまとめ

1. がいよう 概要

平成29年1月15日、知立団地「昭和老人憩の家」にて、第8回昭和未来会議を開催しました。今回も、これまでの展開をふまえて、各グループのこれまでの状況に応じた進め方でワークショップをおこないました。(参加者18名)

2. まとめ

今回は、「昭和未来会議のスタートから半年以上が経過したこと」、「毎回参加できず、これまでのストーリーが共有できていない人もいること」などの理由から、まず、第1回目から7回目までのおさらいを行いました。

～「これまでのおさらい」の概要～

まず第1回では、「昭和地区の理想の未来」をテーマに意見交換を行い、昭和地区の「課題」と「理想の未来」を共有しました。そして、第2回、3回では、昭和地区をよりよくしていくために、「やってみたいこと」について意見を出し合いました。

これらの話し合いを通じて、「それぞれの生き方や経験をもとにした、様々な考え方や価値観があること」を知りました。一方で、「昭和地区の多くの皆さんが共通で考えている課題や理想の未来」も見えてきました。

▶ 昭和地区共通の理想の未来①：若者にとって魅力ある昭和に！

⇒若者の定住・移住が必要！ まず、在住の若者がいきいきと活躍、魅力を感じる昭和に！
若者の活躍を皆が歓迎・応援する気運も大事！

▶ 昭和地区共通の理想の未来②：みんなが安心して暮らす昭和に！

⇒高齢者も外国籍住民も子どもたちも！

今後は、この共通の理想の未来のために「やってみたいこと」について、話し合いを続けていくことになりました。

この他に、「地域住民同士の情報共有」「行政や関係者との情報共有の場」としても効果を発揮し、地域だけで解決できないことは、それぞれの立場から創意工夫をしていくという考え方についても意見がまとめられました。

第4回以降は、様々な立場や考え方の人達が合意形成していく難しさを実感しつつ、『やりたいこと』を具体的に、実行するための話し合いが続いています。

「これまでのおさらい」の後は、「イベントグループ」「支援が必要な方に対してできることグループ」「交流の場グループ」の3つのグループに分かれて話し合いの続きが行われました。

各グループの意見を集約すると、以下のようにになりました。

グループ①『交流促進①～イベント等で交流の機会を！～』

<これまでのストーリー>

◆イベントは、交流促進や地域に活気をもたらすきっかけとして効果的です。昭和未来会議でも、新しいイベントについての多くのアイデアがあげられました。

◆しかし、実際に新たなイベントを行うとなると、「人（中心的人物や協力者）、場所、資金、地区内の他のイベントとの兼ね合い」等の理由で、新しいイベントの開催は難しいというのが11月の昭和未来会議を終えての主な意見でした。

◆そこで、イベントグループの話し合いの節目として、既存イベントの情報整理をはじめました。
⇒12月の会議では、イベントの意義について改めて考え、視点を取りまとめました。その上で、2つの方向性が示されました。

①イベント情報の整理は事務局で引き継ぎ、その後、町内の関係者の皆さんに内容をご確認頂き加除を加えた上で、様々な形で情報を活用していくことになりました。

⇒既存イベントへの活性化。参加者、協力者の増加

⇒運営者が各イベントの情報を知ること
で、内容の磨き上げやイベントの存続に繋げる

⇒新規のイベントを考えたいという住民が出てきた際の参考とする

⇒定期的に情報を修正・更新し、昭和未来会議で管理、活用していく

②子ども向けの防災イベントをやってみようという、アイデアが出され、実現に向けて話し合いが行われました。
(※次頁の第8回の意見まとめを参照)

<ul style="list-style-type: none"> ・(災害)体験イベント <p>NEW!!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ↑ 子ども向け!! 大人の役割も 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の防災訓練とは別の物で ・遊び心も大切 ・事前の地区の特徴出し ・炊き出し⇔食 ・前回のフェスの災害イベントは 12人×5=60人 + 親子 子ども向けの物だけでなくすぐ実施できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・両輪! (「イベント」と「日々の交流」) ・接着剤としての防災イベント
誰が	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの固定も必要 ・オヤジの会を昭和地区でサポート ・オヤジの会、キタジマさんがお声掛け 	
協力	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>防災ママ かきつばた</u> (子育てサークル) ・<u>“みらい”</u> の協力 ・いずれ<u>外国籍の方</u>も (将来的に?) ・(高橋さん) <u>スクールガード</u>も巻き込んでやってあげれば ・<u>自衛隊</u>にとってもよいPRの場に ・<u>消防</u>も関わってくれた ・<u>学校</u>周知でも巻き込む。夏休みに実施 参考:ハッ田小 夏休み学校でキャンプ (希望者、防災も兼ねている)。竹を切って流しそうめん。校庭でテント、東小でオヤジの会の防災イベント + 外国籍の方も巻き込む ・<u>多文化共生プラン</u>でも外国子ども・防災で ⇔ 連携 ・<u>町内会</u> → 関わって頂きやすいように上手に巻き込む <p>昭和の交流が目的なので、町内会も関わって頂くのが理想 先例がないので、難しい?⇒まずは任意で協力してもらえるところから</p>	
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・記録係重要 ・防災イベントもやるが、イベント情報整理も必要⇒皆で考えるものではない 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・6~9丁目が少ない ・東小、先生にもWSに入ってもらえばよい ・未来会議だから、未来を考える。5~10年先 ・PRの機会。参加者少ない。いろいろやっているが・運営する人が集まらない ・企画書作っては? 	

グループ②『支援が必要な方に対してできること』

＜これまでのストーリー＞

◆ここ数回話題となっている「認知症対策」。高齢化が著しい昭和地区でも重要な対策の一つとなります。

◆これまでの会議の中でも、認知症対策についてのアイデアが幾つかあげられてきました。今後も様々な高齢者対策が必要となりますが、昭和未来会議では、まず、はじめに認知症について考える機会について検討していけないか考えていただくことにしました。

◆第8回目の会議では、行政や社会福祉協議会と相談しながら、具体的に昭和地区で認知症対策の取り組みが行えるよう、事前に事務局が準備した実施イメージをもとに検討を進めました。

⇒ 実施イメージは次頁、会議意見については、次々頁をご参照下さい。

(今後について)

- ◆まず、昭和未来会議の参加者を中心にプレ体験ができるよう、日程の調整を行います。
- ◆「劇団」のアイデア等についても、実現可能な時期や内容について検討を続けます。

支援グループ	<p>☆まず、 「三認知症サポーター養成講座」を開催</p> <p>●場所の候補：老人憩いの家 ほほえみの里 知立団地集会所</p>	<p>今年度（平成28年度）</p> <p>●活動の目的 ・講座を聞くだけでなく、地域で話し合うことが大事 ・地域の人が知り合う場、顔を合わせる場にもなれば ・目的は認知症のことを理解している住民が地域にたくさんいる状況をつくること。高齢化の進む昭和地区では特に。（認知症サポーターになったら定期的なボランティア等で今後の活動で負担が生まれる、というものではない） ・認知症に限らず、色々な関心事について勉強できる場づくり ・支援等に取り組んでいる人達の情報共有の場</p>	<p>来年度以降の展開</p> <p>●反省会の意見を踏まえ、内容を盛り上げる ・昭和地区全体で認知症サポーター養成講座を開催 ・未来会議のメンバーも有志が協力</p>	<p>来年度以降の展開</p> <p>●反省会の意見を踏まえ、内容を盛り上げる ・昭和地区全体で認知症サポーター養成講座を開催 ・未来会議のメンバーも有志が協力</p>	<p>来年度以降の展開</p> <p>●反省会の意見を踏まえ、内容を盛り上げる ・昭和地区全体で認知症サポーター養成講座を開催 ・未来会議のメンバーも有志が協力</p>
プログラム案	<p>●日程：未来会議とは別の土日で、老人クラブの活動日程も踏まえ</p> <p>●参加者：未来会議参加者、関心のある地域の人々</p> <p>●内容 ・三認知症サポーター養成講座のダイジェスト版 ・地域の方々と意見交換会</p>	<p>●反省会の実施 ・近所の人の接し方わからない ・どのような話が聞きたいか</p>	<p>→</p> <p>●将来的には ・昭和地区オリエジナルの認知症サポーター養成講座に発展 ・交流の機会の機能も併せ持った催し ・認知症への理解が深い住民が増え、高齢者が安心して暮らせる地域につながる</p> <p>→</p> <p>●将来的には ・昭和地区オリエジナルの認知症サポーター養成講座に発展 ・交流の機会の機能も併せ持った催し ・認知症への理解が深い住民が増え、高齢者が安心して暮らせる地域につながる</p>	<p>→</p> <p>●将来的には ・昭和地区オリエジナルの認知症サポーター養成講座に発展 ・交流の機会の機能も併せ持った催し ・認知症への理解が深い住民が増え、高齢者が安心して暮らせる地域につながる</p>	<p>→</p> <p>●将来的には ・昭和地区オリエジナルの認知症サポーター養成講座に発展 ・交流の機会の機能も併せ持った催し ・認知症への理解が深い住民が増え、高齢者が安心して暮らせる地域につながる</p>

第8回の昭和未来会議用の案です、認知症サポーター養成講座の体験版の開催日程や内容について話し合いつつ、可能であれば「劇団」についてもお話を進めよう、というものでした。

第8回会議の意見

<p>さんかしゃ ふ 参加者も増やすきっかけは？</p> <p>こそだ ちいきしえん わか ひと かんげい 子育ての地域支援(若い人へ歓迎。NPO で</p>	<p>しょうわ しせつ りょう たもくてき ゆうこう 昭和の施設の利用。多目的であってもよい。有効</p> <p>かつよう たいせつ 活用することが大切</p> <p>きぞんそしきかつせいか 既存組織活性化</p> <p>ちゅうしょくかいしゅうかいじょう つき かい つき かい おしゃべり昼食会集会場で月1回。月3回20～〇</p> <p>じ さんかしゃ しゅつせき き か 時。参加者の出席を気に掛けている</p> <p>こうぎ こうてき じしゅこうざ じしゅ 講座(公的)から自主講座(自主G)へ</p>
<p>かいらんばん まわ さんかしゃ あつ 回覧板を回すだけでは、参加者が集まら ず、声掛けで集まる</p> <p>にんちしょう よぼう はな ほう よ 認知症の予防の話をした方がよい</p> <p>しえん かなか かた よぼう 支援の関わり方。予防</p> <p>よぼう ちしき え 予防の知識を得ること</p>	<p>かつどう ぎょうせいじよせいほうほう けんどう サークル活動への行政助成方法の検討</p> <p>つど ぼしよ いぼしよ おお 集う場所(居場所)が多くあること</p> <p>うんえい 運営リーダーがない</p> <p>じょうほう あつ ちいきぜんたい きょうゆう 情報(集まり)を地域全体が共有できるか？</p> <p>しゅう かい しゅげい しゅう かい カラオケ週1回、手芸(もやいこで週1回)いろいろ</p> <p>かた きょうみ も な方が興味を持てるとよい</p> <p>しょうがいがくしゅう 生涯学習</p> <p>あつ すうにん へいきん さい つき かい こてんこうざ 集まり 40数人、平均80歳、月1回、古典講座</p> <p>さぽーターになってもらもなかなか 認知症の方と接 する機会がない</p> <p>いえ と 家に閉じこもらないようにする</p>

グループ③『日頃の交流の場』

<これまでのストーリー>

◆話がなかなか進まない所以对象を絞って議論してはどうか、というご提案があり、子ども、高齢者の視点で意見交換を進めるように準備しました。



◆まずは、新規のアイデアよりも、既存の活動を中心に検討していこう。ということで、話し合いがはじまりました。



◆「グランドゴルフ」、「畑づくり」、「東小のせせらぎの会とのつながりの検討」、「“みらい”の活動とのつながり」などが、検討内容としてあげられています。



◆引き続き、既存活動から広げる候補について検討し、まず、最初に手掛けてみる活動を絞り、具体的なアクションに向けて話し合いを進めていきます。



◆今回の第8回会議では、このグループには初めて参加するという方を中心に話し合いが行われました。新しい視点からの意見があげられています。

(アイデアの詳細は次頁をご参照下さい)

※「農園」「グランドゴルフ」等これまでの意見については、関係者の揃う機会に改めて意見交換を行います。

	既存の活動	今後の取組み	その他
子ども	・“みらい”	・英語を話せる人がいるといい	
	・東小 せせらぎの会		
	・東っ子カーニバル（イベント）地域の人と子ども達遊ぶ		
		・外国の人とも関わられるように	
外国人	・パルケ	・大人と子どもが遊ぶような一月に1日できれば	
	・縄跳びが盛り上がった	・オヤジの会の人に協力をお願いしている	
	・現在 10 人くらいで運営。20 歳代～高齢の方まで	・遊休農地はある	
	・いろいろな遊びがその場で生まれた	・一月に1回話し合うことをしている	
	・一月に1回やれば	・学校、幼稚園、保育園に呼び掛け	
	・畑作り 新規 ※参考刈谷		
	・毎日行かなくてはいけない？（収穫期）		
	・グランドゴルフ	・ママともコミュニケーション	・プレイパーク。遊具を運んで3～4人でやっている
		・親同士の交流が生まれるといい	・ノコギリとかトンカチとかを使う（風船、水鉄砲）
		・ブラジルとの文化の違いを伝える、共有することが大切	
高齢者	・ラジオ体操	・ラジオ体操から交流が広がるといい	・知立団地はフレンドリー
		・お母さん世代（時間のある人）が、交流できれば	・近隣との関係や利便性が高い